

安全・適正就業だより



☆☆☆☆☆ 経験過信は事故のもと、安全は基本動作と正しい手順で ☆☆☆☆☆

役にたった！！「ドライブレコーダー」

昨年度、シルバー人材センターの公用車にドライブレコーダーを設置した結果、早速2件の事故確認が速やかに明確にでき、正しい処理ができました。

- 事故Ⅰ 3月27日（金）10時30分ごろ、環境班の公用車を運転中、民家の縁石（ブロック）に接触して右前のバンパーを破損した。
- 事故Ⅱ 7月10日（金）9時8分、不法投棄監視業務でシルバーの公用車を運転し停車中、前の車がバックしてきてぶつかった。加害者はぶつかったことに気付かずそのまま前に走行し始めたので、会員が追いかけて事故のことを伝えた。警察立会いのもと対応した。

「急発進防止装置」を装着しました。



このところ、特に高齢者が運転する車の急発進による交通事故が多く発生しています。ペダルの踏み間違いによる急発進を防止し事故を未然に防ぐため、環境班使用の公用車に急発進防止装置「アクセル見守り隊」を装着しました。

コロナウイルス感染防止に最大限の注意を・・・

一旦少なくなった感染者ですが、「非常事態宣言」解除後増加傾向にあり、このところ、連日各地で最多感染者数が更新されています。ずっと感染者2人で落ち着いていた秩父市でも、8月4日現在で27人となってしまいました。声を出さない、そして見えない厄介なウイルス、自分が感染しても他人に感染させても困ります。特に就業中は、手の消毒・マスクの着用・お客様と話す時は出来るだけ間隔を空けるなどを行いましょ。また、普段の生活でも3密を避け、できるだけ外出を控えるなど、皆で感染拡大を防止しましょ。

こんな事故がありました・・・（全シ協発行、安全就業ニュースより）

土曜日の午前11時ごろ雨で滑りやすくなっていたスーパーの店内で転倒して後頭部を打撲した。店ですぐに救急車を手配してくれたが、会員が断りそのまま普段通りの仕事をして帰宅した。月曜日、家族が自宅で倒れている会員を発見し救急搬送したが、1週間後、転倒が原因の脳内出血により誤嚥性肺炎を併発して死亡した。

この事故は、転倒した時すぐに病院に行っていたら防げた可能性の高い事故です。軽度と思われる負傷でも病院に行きましょう。そして、「自分の身は自分で守る」という意識を持つことが大切であり事故の防止に繋がります。

全国統一スローガンが決まりました

（全シ協発行、安全就業ニュースより）

令和4年度までのスローガンとなります。

「いつまでも 働く喜び 無事故から」

令和元年度重篤事故の分析（全シ協発行、安全就業ニュースより）

重篤事故＝死亡事故、または6カ月以上の入院

年度	就 業 中			就 業 途 上			総 件 数		
	死亡	入院	小計	死亡	入院	小計	死亡	入院	合計
29	22	10	32	11	3	14	33	13	46
30	29	8	37	14	2	16	43	10	53
元	12(1)	9(0)	21(1)	6(1)	10(2)	16(3)	18(1)	19(3)	37(4)

上記のとおり、**重篤事故の件数は37件**で昨年度の53件から16件と大幅に減少している。就業中の事故は21件（56・8％）で大幅に減少しているが、就業途上中の事故は16件（43・2％）と同数であり年々占める割合が高くなっている。また（資料なし）、就業中の事故の57％が「墜落・転落」であり毎年高い割合で推移している。その中で、植木剪定・樹木剪定中の事故が突出して多い。

年齢・男女別でみると、71歳～75歳が32％と最も多く、次いで81歳以上が27％となっている。男女別に見ると89％が男性で、その内71歳～75歳の層が32％と最も高い数値となっている。

就業途上事故の例

（全シ協発行、安全就業ニュースより）

- 1 自転車で公園の清掃に向かう途中、交差点で自転車と出会い頭に衝突した。
- 2 自転車で漕ぎ出そうとした際に、前輪が縁石に乗り上げ転倒した。
- 3 歩道に設置されている植え込み部分に自転車の後輪が接触し、転倒した。
- 4 暴風雨の中、自転車で走行していたところ車にぶつけられた。

※ この事故原因として、運転の失敗、前方不注意、周囲の安全確認不足など本人の不注意が考えられます。事故防止のために、自転車乗用マナーの遵守と、ヘルメットを必ず着用し安全に自転車に乗りましょう。



秩父市シルバー人材センター 安全・適正就業委員会
秩父市野坂町1-13-14 電話 22-4454